

PRAEVIDENTIA DAILY (6月11日)

昨日までの世界：ユーロが続落

昨日は材料が少ない中で、米国の中長期債利回りの上昇に伴って、ユーロやポンドなどの欧州通貨が対ドルで下落した一方、豪ドルやNZドルは米中長期債利回りの上昇にも拘らず対米ドルで上昇するなど、まちまちの展開となった。ユーロは、米利回りの上昇だけでなく、高止まっていたユーロ圏短期金利が先週の ECB による利下げを受けて大きく低下してきていることもユーロの重石になっている。例えば翌日物金利である EONIA は ECB 政策理事会前の 0.14% から昨日は 0.05% と過去最低水準へ低下した。

豪ドルは、昨日発表の豪州経済統計はどちらかというと悪いものが多かったにも拘らず対米ドル、対 NZ ドルでの堅調が続いている。住宅ローン件数が前月比 0.0%、ANZ 求人広告件数が前月比 -5.6% といずれも市場予想を下回った。NAB 企業サーベイでは、景況感は -1 と前月のゼロから悪化した一方、信頼感 は前月の 7 (6 から上方修正) から横ばいだった。

ドル/円は、日経平均の下落と共に 102 円台前半へ軟化した後は、米中長期債利回りの持ち直しに支えられて 102 円割れを回避し、引き続き狭いレンジ内の動きが続いている。

主要通貨ペアの前営業日比変化率と、連動性が高い金利・株価・商品市況の変化

	変化率	米日2年金利差	米2年金利	日2年金利	米日10年金利差	米10年金利	日10年金利	米株価	日株価	原油WTI	原油Brent
ドル/円	-0.2	+0.03	+0.02	-0.01	+0.04	+0.04	-0.00	-0.0	-0.9	-0.1	-0.3
	変化率	独米2年金利差	独2年金利	米2年金利	独米10年金利差	独10年金利	米10年金利	欧株価	米株価	原油Brent	西伊の対独格差
ユーロ/ドル	-0.3	-0.02	+0.01	+0.02	-0.02	+0.02	+0.04	+0.2	-0.0	-0.3	+0.06
	変化率	英米2年金利差	英2年金利	米2年金利	英米10年金利差	英10年金利	米10年金利	英株価	米株価		
ポンド/ドル	-0.3	+0.00	+0.02	+0.02	-0.02	+0.02	+0.04	-0.0	-0.0		
	変化率	豪米2年金利差	豪2年金利	米2年金利	豪米10年金利差	豪10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
豪ドル/米ドル	+0.2	-0.02	-0.00	+0.02	-0.04	+0.00	+0.04	-0.0	+1.1	-0.2	
	変化率	NZ-米2年金利差	NZ2年金利	米2年金利	NZ-米10年金利差	NZ10年金利	米10年金利	米株価	中国株価	CRB	
NZドル/米ドル	+0.4	+0.03	+0.05	+0.02	-0.02	+0.02	+0.04	-0.0	+1.1	-0.2	
	変化率	米加2年金利差	米2年金利	加2年金利	米加10年金利差	米10年金利	加10年金利	米株価	原油WTI	CRB	
米ドル/加ドル	-0.0	+0.01	+0.02	+0.01	+0.01	+0.04	+0.03	-0.0	-0.1	-0.2	

(注) 為替相場、株価および商品価格は前営業日比変化率、金利は前営業日比変化幅(%ポイント)。

きょうの高慢な偏見：失業率は BoE に勝てるか

きょうの注目通貨：GBP↑、NZD↓、EUR/JPY↓

きょうの指標、イベント	時刻	前期	市場予想	備考
Mersch・ECB 理事発言	17:15			
英4月失業率	17:30	6.8%	6.7%	
Broadbent・BoE 金融政策委員発言	22:45			ハト派
RBNZ 金融政策決定	6:00	3.00%	3.25%	
Wheeler・RBNZ 総裁記者会見	6:05			

(出所) プレビデンティア・ストラテジー作成

本日は英失業率が注目だ。Fed と同様に、BoE も将来の利上げ検討開始にあたり失業率の数値基準は既に廃止し、余剰生産力に関する幅広い指標を検討することとしているが、それでも失業率は余剰生産力に関する有力な指標の一つであることに変わりはなく、かつ改善が続いており、BoE は利上げ開始に向けて着実に進んでいると考えていだろうか。こうした中、失業率の更なる低下、特に市場予想をも下回る場合には、ポンド買いに繋がりが易いだろう。

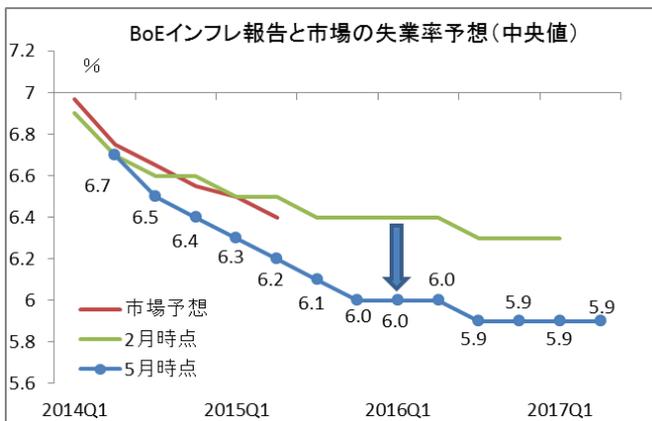
BoE は労働市場動向に関してかなり強気で、5月インフレ報告時点で既に市場予想よりも大幅な失業率低下を

予想（第2四半期：6.7%、第3四半期：6.5%）、それでも BoE 金融政策委員らは年内の利上げの可能性は低いとこれまで発言している。このため、BoE を更にタカ派化させ年内に利上げに踏み切らせるには大幅な失業率の低下が必要となる。今回市場予想通り 4 月分が 6.7%になると、4-6 月期に 6.7%としている BoE 予想よりも速く失業率が低下する可能性が高まることになる（**下図を参照**）。

RBNZ は 25bps の追加利上げを行うと予想されており、既に織り込み済みだ。その後に NZ ドルが上昇するかは、声明文あるいは Wheeler 総裁記者会見で、①十分に織り込まれていない次回 7 月 24 日会合における追加利上げが示唆されるか、②利上げに伴う NZ ドル高をけん制する発言を強めるか、が重要となる。①次回会合で追加利上げに前向きな姿勢が示されると、既に今年合計 8 回予定されている会合のうち最初の 5 回で 1%ポイント引き上げることになり、これまで RBNZ が述べてきた来年末までに合計 2%ポイントというスピード感より速いため、NZ ドル買いになるだろう。他方、②については、利上げにより NZ ドルが上昇するようだと利上げペースを調整する、といった趣旨の発言/文言が既に前回 4 月 24 日会合の声明文に含まれており（今後の OCR 引上げのペースおよび幅は経済指標や、NZ ドル高がインフレを押し下げる程度を含めたインフレ圧力に関する評価に依存する「The speed and extent to which the OCR will be raised will depend on economic data and our continuing assessment of emerging inflationary pressures, including the extent to which the high exchange rate leads to lower inflationary pressure.」）、これが強められる場合に、NZ ドル買いとなる。

当社は①RBNZ が次回追加利上げ示唆は行わないとみており、発表後の NZ ドル反落を予想している。②については前回と同じ文言が含まれるものの、5 月以降 NZ ドルが軟調に推移している中、文言が強められる可能性は低いとみている。

ユーロやドル/円については追加材料に乏しいが、ユーロ/ドルは今後も断続的に ECB 6 月理事会で発表された措置が実行に移されていくため下落基調が続くとみられ、目先は先週の ECB 会合後の安値である 1.3503 ドルだ。ドル/円は 102 円を挟んだレンジ内推移継続が予想されるが、ユーロ/ドルの下落基調が続くとユーロ/円にも下押し圧力がかかり、現在の 138 円半ばから 5 月末の直近安値である 137.98 円を下回ると下落が加速するとみられる。



ディスクレイマー

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、全てお客様ご自身でご判断下さいませようよろしくお願い申し上げます。
 当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。
 当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。当資料は購読者向けに送付されたものであり、購読者以外への転送を禁じます。

プレビデンティア・ストラテジー株式会社
 金融商品取引業者（投資助言・代理業）関東財務局長（金商）第 2733 号
 一般社団法人 日本投資顧問業協会 会員番号 012-02641